

脳梗塞は脳に栄養を運ぶ血管が閉塞して起こる病気です。高血圧や糖尿病などの生活習慣病によって動脈硬化が進行して血管が狭くなり、詰まってしまふと脳梗塞を発症します。心臓の病気が原因になることもあり、例えば心房細動という不整脈があると心臓の中に血栓(血液のかたまり)ができ、この血栓が



徳島大学病院神経内科

山本 雄貴 医師

移動して脳の血管を詰まらせることがあります。

脳梗塞を発症すると、手や足に力がいらない、感覚がわからない、ろれつがまわらない、言葉が出ないといった症状があらわれ、後遺症の回復に長期間のリハビリテーションが必要になります。また広範囲の脳梗塞では死に至る可能性もあります。

脳梗塞の急性期治療でまず考慮されるのはt-PA(組織プラスミノゲンアクチベーター)の静注療法です。これは強力な血栓溶解薬を点滴して血管に詰まった血栓を溶かすという

治療です。

しかし、使用にはいくつか条件があり、まず発症後4時間半以内に投与する必要があります。投与できたとしても血栓がうまく溶けない場合があります。治療によって患者さん全員の症状が良くなるわけではありませんでした。

脳梗塞の急性期脳血管内治療

t-PAを使ってもよくなるない、またt-PAを使えない患者さんでも、カテーテルを用いた脳血管内治療ができる場合があります。おもに足の付け根のところから血管内にカテーテルを挿入し、脳の血管の詰まっているところに直接、血栓吸引や血栓回収といった治療をおこなうことができます。近年ではカテーテル機器の進歩が著しく、治療の成績も年々向上していることから、今後ますます普及してゆく治療だと思われまふ。

徳島大学病院脳卒中センターでは複数の脳血管内治療専門医がこの治療にたずさわっています。脳血管内治療は発症後およそ8時間以内の患者さんが対象です。脳梗塞の治療は時間との勝負で、早ければ早いほど治療成績が良いとされています。脳梗塞を疑う症状が出たら、できるだけ早く病院に来ていただくことが重要です。